

E

知的障害教育部門
高等部

Google Meet を活用した買い物学習

【実践内容】

- ・生徒が校内の自販機まで飲み物を買う姿を iPad で撮影し、それを教室にいる生徒や教員に中継し、リアルタイムで見られるようにした。
- ・技術的には、校内 Wi-Fi を使い、教室の受信用 iPad と生中継用 iPad を Google Meet でつないだ。また、iPad を HDMI で TV に接続し、画面に映し出した。
- ・所定の場所に iPad を設置して定点カメラとして使うことも検討したが、TV 画面に複数の画像が出現して、生徒がどこに注目してよいかわからなくなると考えたので、定点カメラは採用しなかった。

【生徒の実態】

- ・自販機にお金の入れ方がわからない生徒から、ひとりでできる生徒まで、実態に幅がある。

【ねらい】

- ・経験が少ない生徒には、飲み物を購入するという学習だけでよかったが、すでにできている生徒には更に別の要素（教室からひとりでいく）を入れたかった。
- ・ひとりで、どの程度できるのか知りたかった。

【用意したもの】

- ・TV、HDMI ケーブル、iPad（2台）、ライトニングケーブル、HDMI アダプタ、Google Meet

【結果】

- ・「はじめてのおつかい」のように生徒がひとりで買い物に行く姿を見ることができた。教員が少し離れた位置で撮影者に徹したので、生徒にヒントを与えることはなかったが、自分なりに考えて買い物をすることができた。「自分で何とかしなくてはいけない」という気持ちを持たせることができたのかもしれない。
- ・教室のTVモニターで友だちが頑張る様子を何度も見ることで、自販機までの道のりを何度も確認でき、自信のない生徒にとってはよい手本となった。1時間以上の授業だったが、ほとんどの生徒が集中力を途切れさせず、TV モニターの友達の様子を見ながら、感想を述べ合っていた。・他の活用方法としては、「図書室に本を返してきて」「〇〇さんに伝言してきて」などが考えられる。



赤丸で目標です。

DropTalk を使用した意思表示

1 活用の発端となった出来事

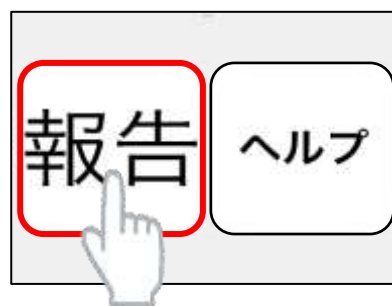
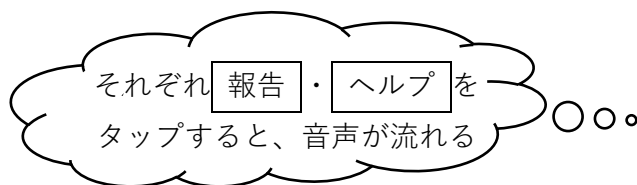
家庭では言葉での会話があるが、学校生活では言葉を発してのコミュニケーションが難しい生徒が、これから挨拶や最低限のやりとり（報告連絡相談等）をおこなえるようになりたいという思いを持っていることを、担任との面談で伝えてくれていた。

2 DropTalk を使用した経緯

- ・本人と相談する中で、まずは校内実習において、報告（できました。確認お願いします。）を自分でおこなえるようにするという事になった。
- ・DropTalk の他に、呼び鈴やビッグマック、意思表示カードも候補に挙げ、相談をした。
- ・本人が DropTalk を使用すると決めた。
- ・その後、自分の声を吹き込むか、教員の声を吹き込むかを相談し、まずは教員が声を吹き込んだものを使用することとなった。

☆DropTalk を使用した理由

- ・他部門で発声の難しい生徒が本アプリを使用していたことを思い出し、今回の生徒にも活用できるのではないかと考えた。
- ・自分の声、他の人の声、読み上げ機能等、発声方法に幅があり、本人の気持ちや状態に合わせて段階的に使用できる。
- ・卒業後のことを考えると、本アプリならスマートフォンでも使用でき、自分で活用していくことができる。



3 実践の内容

- ・「報告」をタップすると、吹き込んだ声が出るようになっていて、実習において、決められた作業量を終わったら、タップして報告をするという流れで使用した。
- ・タブレットからだとボリュームが小さかったため、Bluetooth スピーカーで出力した。
- ・途中から、困ったときに教員を呼ぶ手段として、「ヘルプ」も作り、使用した。これは声を吹き込まず、読み上げ機能を使用して、「ヘルプ」と伝えられるようにした。

4 今後に向けて

- ・現在は教員の声を吹き込んだものを使用しているが、今後は生徒自身の声を使用できるように相談していて、最終的に自分で発声して伝えられるようにしていきたいと考えている。